



われこそが真のお茶の水博士だ!

School FC お茶の水校情報誌
2011 SEPTEMBER

9

公立中高一貫校受検科コース 社会科フィールドワーク第1弾「日本の開国」

7月21日(木)〜23日(土)の三日間、理科実験に引き続いて授業インストラクターの鍋木良夫先生をお招きし、メインテーマである「日本の開国」について学びました。初日は、開国の時代背景や経緯、開国の象徴である「浦賀」と「横浜」の歴史のレクチャー、2日目は浦賀・横浜での歴史探訪、最終日は新聞形式でのレポート作成と、日本の近代の幕開けに、まさに全身で触れる3日間となりました。

◆鎖国って?開国って?

まずは時代背景の学習から。江戸時代当時の日本の外交方針、国際環境について勉強しました。当時の日本は鎖国中。つまり、オランダや清(中国)、朝鮮などを除いて、外国とのお付き合いはありませんでした。そんな中開国を求めてやってきたのがアメリカのペリー艦隊。1853年のことでした。始めて目にする蒸気船の前に、日本の人々は上を下への大騒ぎです……!

◆横浜開港!……でも、なぜ横浜?

当時の日本政府である江戸幕府は、アメリカの圧力に負けて、開国と横浜の開港を決定します。なぜ横浜かって?それは、当時の横浜は幹線道路から外れ、人通りの少ない田舎だったから。当時の日本には外国人に反感を持つ人が多かったから、あえて人通りの少ない場所を選んだのです。こういった時代背景も、地図を駆使してしっかりと勉強しました。

◆歴史の学習で大事なものは「実感」だ!

2日目、浦賀と横浜を訪れた「スクールFC開国取材班」。まっさきに目を付けたのは、横浜の「関内」と「関外」。開港され、外国人に解放された地域と、そうでない地域とを分けるのが「吉田橋の開門」(写真左上)。関内の内側は「関内」、外側は「関外」。まさに開国の象徴です!みんな、「ここから中が関内!」「あっちは関外!」と、実感を込めて何度も確認していました。



◆学習の成果を発表!

3日目、授業と実地探訪で得た知識、感想を新聞形式のレポートにまとめました(写真)。それぞれが工夫して、「日本の開国」をリアルに、そして熱くレポートしてくれました!

